

# テスト設計コンテスト U-30 クラス – アピールシート

チーム ID	S250617001	チーム名	きつつき 1.0
--------	------------	------	----------

## チームの紹介

この項目ではチームやメンバーの紹介、チーム全体の基本コンセプトを記述します。

### チーム紹介

きつつき 1.0 は、パナソニック ITS 株式会社でシステムテストを担当している若手(U30)5名で結成。

チーム名の「きつつき」をアルファベットで記載すると「KITSUTSUKI」となり社名の「ITS」を含めている。

「きつつき」は上から読んでも下から読んでも同じになる回文であり、トップダウン、ボトムアップを繰り返す行うテスト設計にも通じる部分があるかもしれない！という想いで命名した。

また「1.0」には、今後もパナソニック ITS のテスト活動をアップデートしていく！という意味も込めている。

### 全体のコンセプト

Warikan アプリの「バグ」という虫を「きつつき」がを見つけ出し、捕食することをイメージし、満遍なく虫を探す、虫がいそうなところを探す、という当たり前のテストだけでなく、ユーザビリティという隠れたバグ(木の奥底にいる虫)を探し出すという表面的には見えない潜在的な問題を発見して改善することまでをコンセプトとした。

### チームのテスト設計の強み・アピールポイント

要求仕様を満たしていることを確認するテスト設計だけでなく、アプリの使いやすさをテストし、Warikan アプリがひとりでも多くのユーザに使ってもらえるようなエンドユーザ目線でのテストを目指した。

設計においても属人化せず、テスト未経験者でもテスト観点がバラつかないテスト設計ができることを強みとした。

また、テストベースから割り勘支援アプリを作成し、そのアプリを各プロセスで活用している点である。実際に操作し、設計者が起こしそうなバグを予測できることが我々の強みと考える。

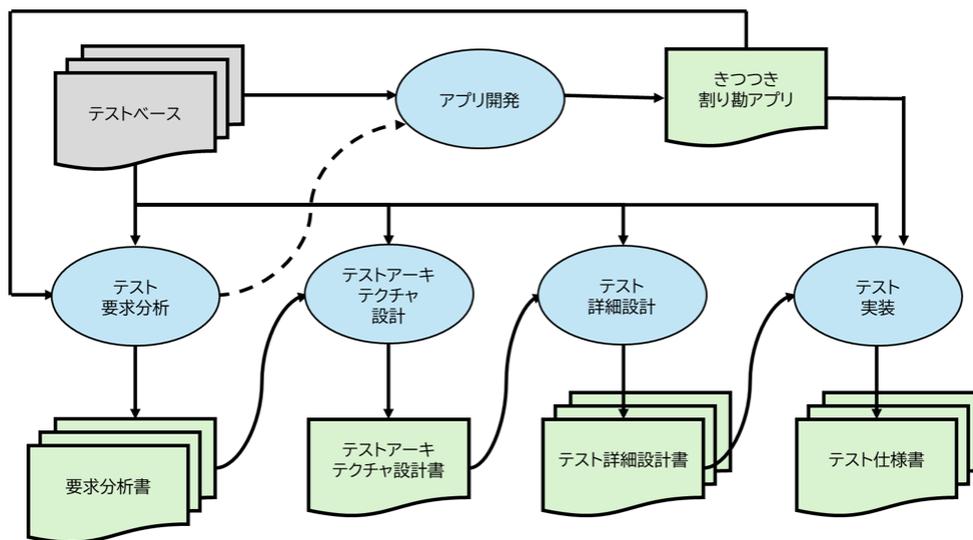
## チームの戦略・方針

この項目では、チームの作業の進め方や成果物の特徴を、設問に従って記述します。他文書（審査対象の成果物など）への参照で記述しても構いません。

### プロセスの説明

チームのテスト設計のプロセス（テスト要求分析・テスト詳細設計といったアクティビティと、テストケースといった成果物の関連性）の全体像を、モデル（PFD やアクティビティ図など）や文章で示してください

テスト設計全体のプロセスについて下記図に示す。



テストベースからテストケースやテスト手順までのトレーサビリティをどのように確保しているか説明してください

テストの詳細設計書、テスト仕様書を仕様書 ID で紐づけを行うことで、要求仕様が追加・変更された際に、関連箇所を抽出することができるようにしてトレーサビリティを確保している。

## テストの構造の説明

採用したテストアーキテクチャが一般的なものより優れているポイントを記述してください

我々はなるべく少ない工数で高い品質を担保できるようなアーキテクチャを設計した。ユーザーが使いにくいと困る機能を重要機能の定義し、重要機能から評価を開始している点である。使いにくいと致命的な機能から要求仕様の保証、バグの検出や仕様書への改善事項をフィードバックすることで早期に品質を高めることが狙いである。

テストベースに対する網羅性の確保(目的を満たすようにテストベースを網羅する)で、どのような工夫をしたか記述してください

テストベースである要求仕様に対し、章ごとに ID を付与した。

本 ID ごとにテスト対象およびテスト観点を明確にし、テストケースの目的を策定する工夫を行った。

要求仕様に対し、テストケースの目的を関連付けることで、網羅性の確保を図っている。

テストベースに対するピンポイント性の確保(無駄なテストを作らない)で、どのような工夫をしたか記述してください

機能テスト詳細設計方針書・実装方針書を作成することで、テスト目的・テストケース粒度を統一する工夫を行った。これによりテストベースに対して設計者が無駄なテストケースを作成することが無くなる。

また、バグ検出の観点ではシステムテストで作成した割り勘支援アプリを実装したこともピンポイント性の工夫である。設計者が間違えそうな箇所を事前に把握することでバグをピンポイントで狙え、工数を削減できると考える。

## 活用した技法や手法の説明

以下のテスト設計技法のうち、今回使用したものを選択してください(記述内容のうち、使用した技法を残し、使用していないものを削除してください。各定義は JSTQB に従います)

Sessin Based Test Management

テスト設計についての既存の方法論(HAYST 法、VSTeP、ゆもつよメソッドなど)や体系(ISO29119、STEP など)で、今回使用したものがあれば記述してください

ヤコブ・ニールセンの 10 原則